

令和4年度教育課題研究

第15回東京都**公立幼稚園・こども園5歳児の運動能力**調査研究

— **小学校との円滑な接続**に向けた指導の工夫と改善 —

実施結果報告及び

合同研修の手引き

本手引きには、令和4年度教育課題研究で行った「5歳児の運動能力調査」及び「幼児の遊びに関する調査」の結果を掲載しています。

また、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続に向けた幼小の教員間の合同研修の方策について提案しています。

幼稚園及び小学校での指導改善に向けて、本手引きを御活用ください。



東京都教職員研修センター

Tokyo Metropolitan School Personnel in Service Training Center

【調査目的】 第1回（昭和55年度）以降の運動能力数値の傾向を明らかにする。

【調査対象】 都内公立幼稚園・こども園68園82クラス

5歳児 **合計1622人**（男児828人、女児794人）

（令和4年度都内公立幼稚園・こども園5歳児全体の41.1%）

【調査内容】 MKS運動能力調査（25m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、体支持持続時間、両足連続跳び越し）

【掲載内容】 各運動能力調査の平均値の推移をグラフで表し、その傾向を分析している。

【25m走 平均値】（単位：秒）

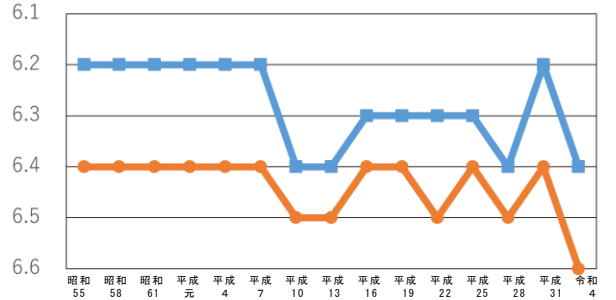
男児(H31→R4)

6.2秒→**6.4秒**

女児(H31→R4)

6.4秒→**6.6秒**

男女ともにほぼ横ばい。女児に関して今年度は、過去の調査の中で最も遅い数値結果である。



【立ち幅跳び 平均値】（単位：cm）

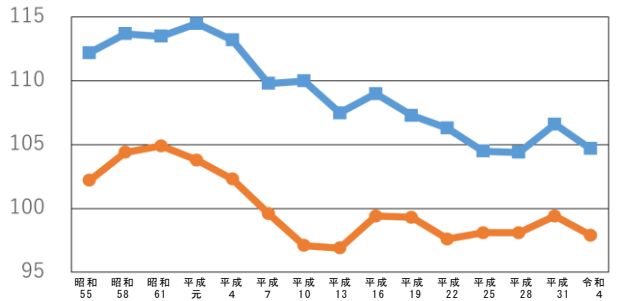
男児(H31→R4)

106.6cm→**104.7cm**

女児(H31→R4)

99.4cm→**97.9cm**

男児は全体的に低下傾向である。女児は平成10年までは低下傾向で、それ以降はほぼ横ばいである。



【ソフトボール投げ 平均値】（単位：m）

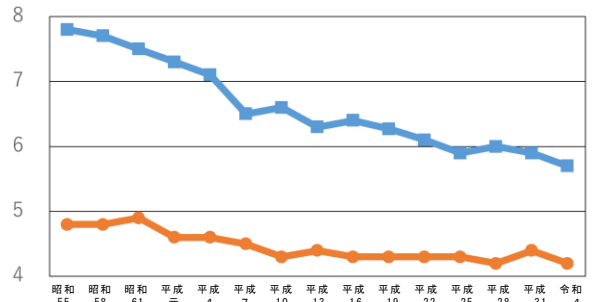
男児(H31→R4)

5.9m→**5.7m**

女児(H31→R4)

4.4m→**4.2m**

男児は低下傾向で、女児はほぼ横ばいである。男児に関して今年度は、過去の調査の中で最も低い数値結果である。



【体支持持続時間 平均値】（単位：秒）

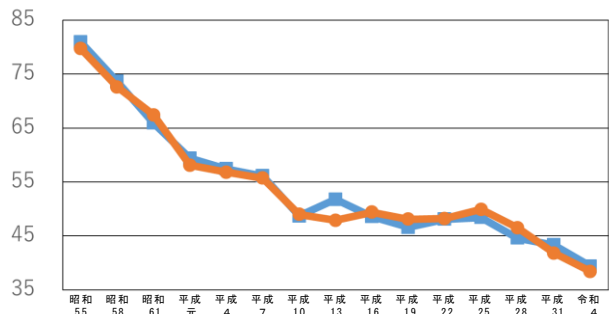
男児(H31→R4)

43.3秒→**39.4秒**

女児(H31→R4)

41.8秒→**38.4秒**

男女ともに低下傾向である。男女ともに第1回調査の約半分の値となり、過去の調査結果の中で最も低い数値結果である。



【両足連続跳び越し 平均値】（単位：秒）

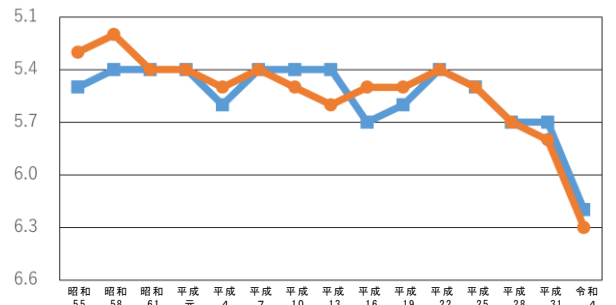
男児(H31→R4)

5.7秒→**6.2秒**

女児(H31→R4)

5.8秒→**6.3秒**

男女ともに今回の調査では、前回調査よりも大幅に低下し、過去の調査結果の中で最も遅い数値結果である。



前回の調査と比較すると、全ての種目において数値が低下していることが分かるね。



幼児の遊びに関する調査結果

【調査目的】 幼児が体を動かすことを楽しんでいる遊び、幼児の日常生活における動作に関する課題、運動能力調査の数値結果から見られる幼児の動きに関する傾向等を調べる。

【調査対象及び内容】 5歳児の担当教員等に対するアンケート調査

【動きの出現頻度を調査した幼児】 運動能力調査の**数値が上位**の幼児**合計109人**（男児79人、女児30人）

運動能力調査の**数値が下位**の幼児**合計136人**（男児71人、女児65人）

※数値が上位の幼児とは、各園において最大2人まで抽出された、5種目全ての運動能力数値結果が各園の平均値を上回った幼児ことである。
※数値が下位の幼児とは、各園において数値結果が下位の幼児の中から、5歳児担当教員が抽出した幼児2人のことである。

【運動能力調査の数値が上位と下位の幼児の好きな遊び】（単位：％）

数値が上位の幼児

鬼ごっこ	17.4
リレー	13.1
縄跳び	9.7
ドッジボール	8.0
鉄棒	7.0
雲梯	6.1
登り棒	5.3
サッカー	4.6
虫探し	2.9
大型積み木	2.4
砂場遊び	2.4

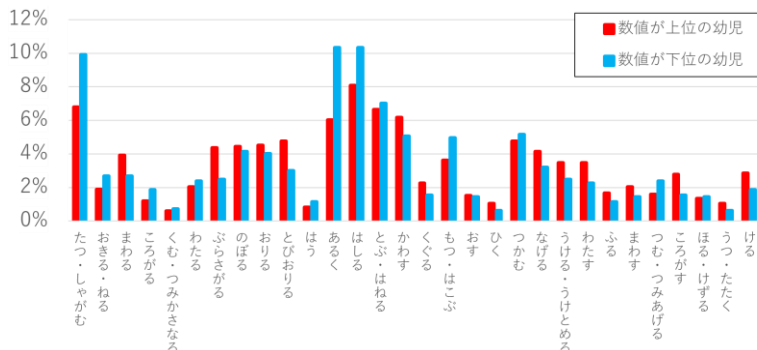
数値が下位の幼児

鬼ごっこ	17.6
ドッジボール	8.6
ごっこ遊び	7.3
虫探し	5.3
砂場遊び	4.9
ダンス	4.5
リレー	4.5
縄跳び	4.5
大型積み木	4.5
鉄棒	4.1
雲梯	4.1

※割合が上位の遊びを数値が高い順に表示している。

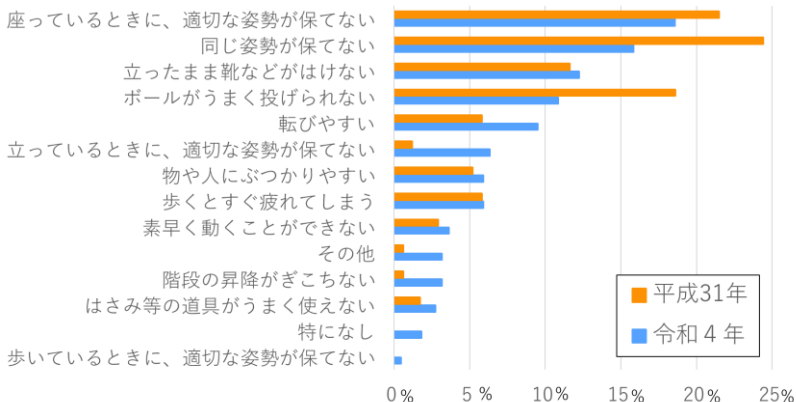
- 青色が共通して好きな遊びである。運動能力の数値結果にかかわらず、好きな遊びは共通している。
- 「リレー」、「縄跳び」、「鉄棒」、「雲梯」は、数値が上位の幼児の方が好んで遊んでいる。

【運動能力調査の数値が上位と下位の幼児の動きの出現頻度】



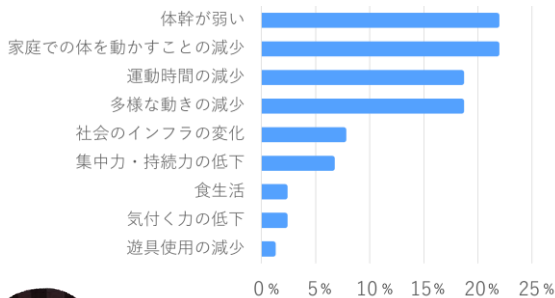
- 左図で示した遊びを行っている時の幼児の動きの出現頻度をグラフ化した。運動能力の数値結果にかかわらず、出現頻度が大きく異なる動きは見られない。
- 運動能力の数値が下位の幼児は、「たつ・しゃがむ」、「あるく」、「はしる」の三つの動きだけで全体の約30%になるため、数値が上位の幼児に比べ、動きに偏りがあり、多様な動きを経験していないと考えられる。

【幼児の日常生活の動作の課題についての前回比較】



- 幼児の日常生活の動作に関する課題を調査した。前回（平成31年度）調査でも同様の調査を行っており、今回調査と比較するためグラフ化した。5歳児の担当教員等が、幼児の日常生活の動作に関する課題について、三つ以内で回答している。
- 前回調査では、「同じ姿勢が保てない（24.4）」、「座っているときに、適切な姿勢が保てない（21.5）」、「ボールがうまく投げられない（18.6）」の三つの項目で約65%を占めていたが、今回の調査では、「座っているときに、適切な姿勢が保てない（18.6）」が最も高く、他の項目同士の差が小さくなったことから、教員がより多くの課題を同時に感じるようになった。

【幼児の日常生活の動作の原因】



- 左図は、上記の日常生活の動作に関する原因について、教員が感じている原因を表したグラフである。幼児の日常生活の動作に関する原因については、「体幹が弱い」、「家庭での体を動かすことの減少」、「運動時間の減少」、「多様な動きの減少」が主であると教員は感じている。
- コロナ禍での生活が長い現在の5歳児にとっては、これらの原因が運動能力調査の結果に影響を及ぼしたと考えられる。



日常生活の動作の原因について、改善を目的とした取組を継続的に行うことで、幼児の運動能力の数値も向上していくと考えられるね。

小学校との連携の現状と改善に向けた提案

幼児の日常生活の動作の原因に対する取組は、幼稚園のみの取組に終わらせてしまってはいけない。なぜなら、幼児は、そのような取組の中で学びを深め、幼稚園教育で身に付けるべき資質・能力を育み、育んだ資質・能力を含めた幼児の学びは、小学校教育以降へとつながっていくからである。

そのため、小学校教員は、幼児が幼稚園での取組の中から身に付けた資質・能力を把握することで、自身の指導改善に生かしていく必要がある。また、幼稚園教員は、小学校教員に向けて自身の取組を発信していく必要がある。

これらを含めた幼小の円滑な接続が、子供への切れ目のない指導につながる。

【幼稚園教員が感じる小学校との連携の成果と課題】（前頁調査内の記述式アンケートより）

【幼稚園教員が感じる小学校との連携による成果】

- これまで実施してきた幼小連携を通じて、小学生にあこがれの気持ちをもつことで、速く走れるようになりたい、ドッジボールで強くなりたいという思いが強くなり、**運動遊びに積極的に取り組む**ようになってきている。
- 「もうすぐ一年生になるから」と普段以上の力を出そうとする場面が増えている。



幼稚園教員

【幼稚園教員が感じる小学校との連携の課題】

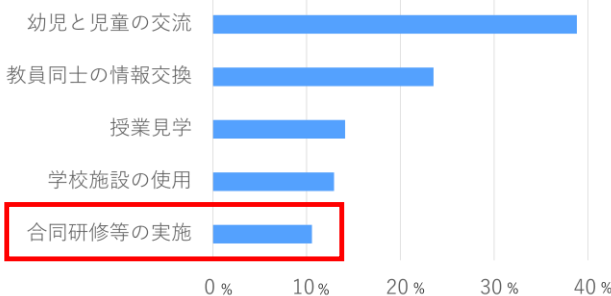
- 幼稚園の様子、小学校の授業の様子などを見る機会を増やし、互いにどのようなことをしているのかを知る必要がある。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての理解や、幼稚園教育要領と小学校の学習指導要領について、相互の理解が不十分である。



幼稚園教員

小学校と連携が、運動遊びへの主体性を育み、運動能力の数値の向上につながる。

【小学校との連携活動の現状】（前頁調査内の記述式アンケートより）



- 小学校との連携については、行事への参加などの「幼児と児童の交流」が約4割と最多となっている。
- 一方で、上記の課題でも挙げられている「互いの教育活動への理解」の解決につながるであろう「合同研修等の実施」を行っている園は、約1割であった。

互いの教育活動を知るなど、円滑な接続に向けた幼小の教員間の合同研修が必要である。

幼稚園教員と小学校教員の合同研修の実施プラン

今回の研究では、幼小の円滑な接続に向けた教員間の合同研修を開発し、検証しました。検証結果としては、**「互いの教育方針や考え方を理解できる。」**、**「抽象的な連携にとどまらなかった。」**、**「スタートカリキュラムについて話す、作ってみるなどもできる。」**、**「一人の子供を集中的に見取り理解するという経験は意味深いと感じた。」** など、効果を実感した幼稚園及び小学校の先生方がたくさんいました。

ここからは、今回開発及び検証した合同研修の方法について、次頁以降で詳しく説明します。

これを例にして、御自身の園及び小学校に即した方法にアレンジしていただくとより効果を実感できると考えます。

STEP1	STEP2	STEP3
会場：幼稚園	会場：小学校	会場：幼稚園又は小学校
内容：合同研修	内容：教科等の実践及び協議会	内容：今後の連携について
目的：当該幼稚園の幼児の観察から、幼小の教員の視点の共有を図る。	目的：幼稚園教育の成果を基にした授業改善に取り組む。	目的：持続的な連携に向けた取組（カリキュラム開発等）について協議を行う。

今回、開発及び検証したのは、上図の「STEP1」の合同研修ですが、同様の合同研修を小学校において行うことで、互いの教育活動への理解が深まることなどから、上図の実施プランを考えました。



【目的】幼稚園教員と小学校教員が、幼小の円滑な接続に向けた気付きや思考を引き出せるようになるために、**互いの教育内容や方法、教育観、指導観を共有**するとともに、発達の連続性や**幼稚園教育及び小学校教育への理解**を深める。

【対象】幼稚園・こども園5歳児担当教員、小学校低学年担当教員

【内容】この合同研修は、「観察」、「共有」、「協議」、「省察」で構成されています。

【準備するもの】観察シート、青・赤・黄色の付箋、模造紙（ホワイトボードでも可）、振り返りシート、筆記用具
※観察シート及び振り返りシートは、検証で使用したものが研修センターウェブページに掲載してあります。

観察



(検証時の観察の場面)

幼稚園教員と小学校教員は、観察対象幼児1名が遊んでいる様子を観察し、観察中に見られた幼児の姿について観察シートに記入する。

観察対象幼児を1名にすることで、先生たちは観察後、幼児の遊んでいる同じ場面を思い描きながら話し合えるね。



【観察シートの記入例】

- ・どうやったら速く走れるかを友達と話し合っている。
- ・ダンゴムシを見つけて「こっちいるよ」と大声で伝えている。
- ・どうやって砂山を盛ると、水が流れるかを考えている。



(検証時の共有の場面・付箋への記入時)

幼稚園教員と小学校教員は、観察対象幼児に表出した力とその時の姿を、それぞれ異なる色の付箋に記入する。幼稚園教員は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を記入することで、幼稚園教員が子供を見取る方法を、小学校教員に伝えられるようにする。

付箋に記入した後は、幼児の遊びの場面（下図の➡のように時系列で）ごとに区切った模造紙に、自身が書いた内容を発表しながら付箋を貼る。他の教員は、貼られた内容に対して疑問に思ったことを質問する。

【付箋の使い方】



幼稚園教員が見取った幼児に表出した力とその時の姿を記入する。
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を必ず記入する。



小学校教員が見取った幼児に表出した力とその時の姿を記入する。



(検証時の共有の場面・付箋内容の発表時)

【模造紙の使い方】

模造紙を幼児の遊びの場面数だけ横に分割する。（下図は三分割）それぞれの場面ごとに、幼児に育まれた力とその時の姿が書かれた付箋を発表しながら貼っていく。

★は幼稚園教員、●は小学校教員が貼った付箋の内容を表している。

【 】は、その姿から見取った幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を表している。一番下の行は、その場面の話し合いの中で出た内容の中で、直接模造紙に書かれた内容を表している。

共有

戦闘中ごっこ（1回目）	鉄棒	戦闘中ごっこ（2回目）
<p>【健康な心と体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★多様な動きを楽しんでいる。 ★やりたい遊びを継続して遊んでいる。 ●ボールの投球動作や捕球の扱いが良い。 ●ガムテープのボールを何度も繰り返し投げた。 	<p>【言葉による伝え合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★途中で仲間がいなくなり悲しい、くやしい思いを味わい、その思いを仲間に伝えようとしていた。 ●いろいろな先生に話しかける等、コミュニケーション力がある。 	<p>【協同性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★一緒に遊んでいる友達を認識している。 ●周りの子たちが「いれて」→「いいよ」「仲間ね」
<p>【自立心】【道徳性・規範意識の芽生え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★モルモットのケージの扉をボールで壊してしまっただが、一度遊びを止めて自分で直した。 ●ボールがモルモットのケージに当たり、入口が外れたが、自分で取り付けた。→自力解決 	<p>【自立心】【思考力の芽生え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★逆上がりは何度も挑戦していた。 ●逆上がりにチャレンジして助言を受けるなど、主体的に取り組んでいた。 ●何度も挑戦し、諦めない力がある。 	<p>【思考力の芽生え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★教師が段ボールを盾にすると、自分も盾にするなど、他者からの刺激でアイデアが浮かんでいる。 ★楽しくするため、もう一つボールを作るなど工夫している。 ●先生に当てるため、遠くからねらったり、周囲を見たりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいこと ・取り組む姿勢を価値付ける。 ・易→難になるよう軽重をつける。 ・苦手と思わせない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場の設定 ・自分で伝えさせる。 ・見通しをもたせるための計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・古新聞紙で新しいボールを作ろうとしている。→算数・図工・生活科

(検証時の共有の場面で作成された模造紙)

模造紙には、幼児の遊びの場面（時系列）ごとに付箋が貼られているね。これにより、どの場面の出来事なのかを把握しやすいね。

また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と幼児の姿を関連付けて話し合えることができるから、幼稚園の先生が見取っている幼児の姿を、小学校の先生も理解しやすいね。





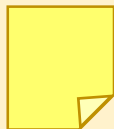
(検証時の協議の場面・付箋の貼り換え時)

貼られた付箋の内容が生かすことができる小学校教育の場面について協議する。小学校教員が主体となり、小学校教育へのつながりを幼稚園教員に伝えながら協議することで、幼稚園教員は小学校教育への学びの連続性を認識できる。

検証時は、小学校教育へのつながりを双方が理解するために、貼られた付箋を一度類似した資質・能力でまとめるように貼り直し、カテゴリー名を付けた。そして、それぞれのカテゴリー名で表された内容が、小学校教育で生かされる場面について、小学校教員が幼稚園教員に伝えた。

これにより、幼稚園教員は、自分たちが行っている教育活動が小学校教育につながり、生かされていることについて理解が深まった。

〔付箋の使い方〕



類似した資質・能力に貼り直した付箋のまとまりに、カテゴリー名を付ける際に使用する。

〔模造紙の使い方〕

共有の際に使用した模造紙をそのまま使用する。遊びの場面ごとに貼られた付箋を、類似した資質・能力がまとまるように貼り直し、油性ペン等で丸で囲む。そして、囲んだ資質・能力が、どのような力でまとめたのかが分かるようなカテゴリー名を黄色の付箋に記入し貼る。

下図では、★は幼稚園教員、●は小学校教員が貼った付箋の内容を表している。【 】は、その姿から見取った幼児期の終わりまでに育てほしい姿を表している。

<p>感情のコントロール</p> <p>★【社会生活との関わり】ドッジボールで負けた後で砂場で気持ちを切り替える。</p> <p>●負けてゲームから抜ける。</p> <p>●外野が投げなくても待つ。</p>	<p>協同性</p> <p>★【協同性】 ルールのある遊びを楽しむ。</p> <p>★【協同性】 納得いなくてもゲームを先に進める。</p>	<p>コミュニケーション力</p> <p>★【言葉による伝え合い】「俺外野」「じゃんけんしよう」「〇〇がんばれ」</p> <p>★【豊かな感性と表現】 楽しい気持ちを表現する。</p> <p>●「ほしい人、手を挙げて」</p> <p>●ボールを取り合う友達への仲裁に入る。</p>
<p>思考力</p> <p>★【思考力の芽生え】「～だから～」という発言</p> <p>★【言葉による伝え合い】じゃんけんで負けた友達には、待っていたという理由を説明して多めに砂をあげる。</p> <p>●いろいろな条件で空気の実験をする。</p> <p>●メガホンの口に土を詰めて、空気の動きを確かめる。</p>	<p>ルール・道徳性</p> <p>★【道徳性・規範意識の芽生え】 当たったら外に出る、線の外からボールを投げる。</p> <p>●じゃんけんでボールを取る。→ルールの理解</p> <p>●「入れて」他者と関わるときのマナー</p>	<p>表現力</p> <p>●いちご作り、砂の性質、水の性質の理解</p> <p>●いちごに見立てた作品を作り、先生に渡す姿より、素材や用具のよさを生かした表現と想像力</p>
<p>知的興味</p> <p>●水にメガホンを入れて「空気が通った。」(物理への興味)</p>	<p>情報活用</p> <p>●ボウルに砂を入れ、泥水をバケツに入れる。(順序立て・道具の使い分け)</p> <p>●道具を目的に応じて選ぶ。</p>	<p>運動</p> <p>★【健康な心と体】 ボールアウトしたボールを素早く取りに行く。</p> <p>●ボールを目で追う。</p> <p>●左右に動き、ねらってボールを投げる。</p>

(検証時の協議の場面で作成された模造紙) ※前頁の模造紙とは別の検証時の内容です。

上図の検証時は、観察した幼児に育成された力を、九つのカテゴリーにまとめたんだね。図の枠の中で、点線の上の部分が新しく作ったカテゴリー名だよ。幼児の遊びの場面の共有を終えた後だから、カテゴリー名もスムーズに作成できたんだ。このカテゴリー名を見れば、小学校の先生は小学校教育で生かされている場面を説明しやすいし、幼稚園の先生もその場面をイメージしやすいよね。



★ 振り返りシートについて振り返りましょう。

1. 本日の合同研修を振り返ると、どのようなことを学びましたか。

2. 本日の合同研修から学んだことは、明日からの自分のどのような指導改善に生かせると思いますか。

(振り返りシート例)



合同研修後に振り返りシートに以下の内容を記入し、学びを振り返る。

1. 合同研修を通して、どのようなことを学んだと感じていますか。
2. 本日学んだことは、明日からの自分のどのような指導改善に生かせると思いますか。

【検証時、振り返りシートに記入された内容の抜粋】

- ・幼稚園は心の動きや内面の心情を読み取ること、小学校は動きなど目に見える部分をよく捉えていると感じました。一人の子供を見ていて、どちらの視点も幼児理解をする上で必要なことだと学びました。
- ・より一つ一つの幼児の動き、育ちを丁寧に見取り、小学校でどのように生かされているのか、そのためにはどのような援助が必要なのかを考えようと思いました。

- ・子供たちの「学びたい、遊びたい」という自然発生的に生まれる意欲を大切に単元計画や日々の授業を組み立てる重要性を改めて感じました。
- ・おどける姿が豊かな感性、「～だから～」という表現が思考力の芽生えなど、幼児の動きの意味について、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を知ること、自分では思いもよらない視点を獲得することができた。





幼稚園での合同研修の方法については分かったけど、小学校の授業を見る機会がないと、小学校の教育活動のイメージが湧かなくて、円滑に接続できるのか不安になるな。

幼稚園教員

- ・STEP 1の後に、小学校でも同様の合同研修を行う。授業における児童の姿を観察することで、幼稚園教員が小学校で活躍する子供の姿をイメージできるようにする。
- ・小学校教員は、STEP 1で得た学びから、幼稚園教員の視点を取り入れた授業作成を行う。
- ・協議の際には、STEP 1で示した方法を活用することができる。
- ・幼稚園教員と小学校教員が一緒になって授業改善について協議等を行うことが望ましいが、それが難しい場合は、小学校教員が作成した学習指導案に、幼稚園教員が幼稚園での実施状況や環境構成の視点を記入することで情報交換をする方法等が考えられる。

5 幼児の運動能力調査研究 学習指導案		
1. 単元名 第一学年「跳つくりの運動遊び（跳くときの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊び）」	基本単元は4月の単元の授業計画を想定して作成した。	
2. 単元のねらい	跳くときの運動遊びを通して、跳くときの運動遊びの楽しさや、跳くときの運動遊びの楽しさを味わうことができるようにする。	
3. 本単元の目標	跳くときの運動遊びを通して、跳くときの運動遊びの楽しさや、跳くときの運動遊びの楽しさを味わうことができるようにする。	
4. 学習内容	学習活動	幼稚園教員の視点や加筆
0. 挨拶	●挨拶上の視点を、配慮事項として記載する。	●園では挨拶をする。
1. ○ウォーミングアップ	●様々な音楽に合わせて跳ぶ動作をして、予習をしたら、跳ぶ動作のイメージを思い出すようにする。	
2. ○「猛獣狩りに行こうよ」	●ムービーの児童を動物園に連れて行くという設定を設け、全体で共有する。	
3. ○動きから楽しむ	●同じのはやめ移動のみを促す「一人一歩進め」など、跳ぶ動作のイメージを思い出すように設定する。	

加筆スペース

本研究内では、小学校の授業改善に生かすため、小学校教員が作成した学習指導案に、幼稚園教員が園での環境構成や実施状況を加筆する検証を行った。左図のように、学習指導案に加筆スペースを設け、記載の学習内容と類似した遊びや指導について加筆した。

【検証内で学習指導案に幼稚園教員が加筆した内容の抜粋】

- 「体ほぐしリズムダンス」の運動遊びについて
 - ・分かりやすいように、大きく体を動かす。安心して取り組めるよう、個々と目を合わせる。
 - ・類似した遊びでは、「ラーメン体操」「エビカニクス」「昆虫太極拳」を行っていた。
- 「猛獣狩りに行こうよ」の運動遊びについて
 - ・体育館のラインを使用し、カエル、ウサギ、ヘビ、クモ、ライオンなどの動きを経験すると、運動の中で様々な動きが出てくる。
 - ・大きな動きができるよう、「ドンドコ…」のところでは大きなジャンプをするなど、教員自身が見本となる。数への興味ももてるよう、動物の名前の文字数を視覚的に示す。
- 「動きかた～あっちからこっち編～」の運動遊びについて
 - ・「レベルup!半分の卵（ボール）がかえって鳥になった。しかも、お腹で支えてもらおうと気持ちよくなるらしい。」→「もうそろそろ起きてほしいから元気に蹴ってみよう。」など、イメージをもちながら楽しく行えるように言葉掛けをする。
 - ・転がる動きは、普段の遊びの中では出にくいので、マットを使って経験できるように環境構成することが多い。

(研究内で小学校教員が作成した
体育運動遊びの学習指導案)

幼稚園の先生方が加筆した内容を基に小学校の授業改善を行うことで、児童の経験に即した授業を展開することができそうだね。児童の主体的な学びを実現することにつながりそうだ。



※本研究は運動能力に関する研究のため体育で検証したが、他教科でも同様のことができる。

小学校教員からは、このような学習指導案を通じて幼稚園教員の視点を得る方法でも、授業改善に生かせるという言葉をいただいています。皆さんの学校でも是非試してみてください。



【小学校で行う協議方法について】




- ・小学校での授業観察後の協議についても、STEP 1の合同研修の方法が活用できる。
- ・特に、幼稚園教員が、観察した児童の姿について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が生かされている場面を小学校教員に伝えることで、小学校教員の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のより一層の理解が促される。

合同研修を活用した幼小の円滑な接続により、切れ目のない指導につなげる。

ここまでのSTEP 1及びSTEP 2を行うことで、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続に向けた教員間の教育観、指導観の共有が図れます。この後は、主にスタートカリキュラムの作成と一緒にするなど、カリキュラム編成につなげていくことで、幼稚園から小学校への子供の学びに対して、切れ目のない指導ができるようになります。

スタートカリキュラム等の幼稚園教育についての更なる理解を深める研修については、「教職員研修センター研修部専門教育向上課」の研修を参考にしてください。以下のURLからアクセスできます。

研究紀要、運動能力調査結果データ及び研究に使用した資料等の一覧については、東京都教職員研修センター研修部教育開発課のウェブページから御覧いただけます。以下のURL又は二次元コードからアクセスしてください。

URL	二次元コード
https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/bulletin/index.html	

研修方法等の詳しい内容は、担当指導主事が御説明することもできます。御希望の際は、以下の「お問い合わせ」まで御連絡ください。

お問い合わせ

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
住所:東京都文京区本郷1-3-3
電話:03-5802-0319